

ふじあざみ



西湖北岸より富士山を望む (写真提供 青嶋 庄示 氏)

コバルト色の神秘的な湖 西湖

西湖は、周囲9.8km、面積2.2km²と富士五湖の中では精進湖に次いで小さな湖ですが、水深は91.6mと本栖湖に次いで2番目の深さとなっています。また、美しいコバルト色の神秘的なたたずまいから「乙女の湖」と呼ばれています。周辺は山と樹海に囲まれており、野鳥も多く生息する自然豊かな湖です。

■溶岩流が形成した自然

西湖は、西暦864年の平安時代に起きた貞観噴火による溶岩流によって、当時の「せのうみ」が分断され、精進湖とともに誕生した湖です。溶岩は、雨水を地中に早く浸透させてしまう多孔質の岩盤であるため、樹木の生育には適していません。しかし、長い年月の間に、コケが生え、そのコ

ケが持つ保水力が樹木を生育させ、現在の青木ヶ原樹海を形成しました。

また、流れた溶岩によってできた、風穴、氷穴などの多くの洞窟をみることができます。

■過去の災害からの再生

現在は、自然の宝庫として知られる西湖



周辺ですが、昭和41年9月の台風26号による土石流によって、西湖の湖畔にあった根場、西湖地区は、死者・行方不明者94名という大惨事にみまわれました。そして、昭和42年全世帯が移転し、民宿村として再出発しました。

現在では、災害のあった根場地区において、富士河口湖町の取り組みにより、「西湖いやしの里 根場」として災害以前の素朴な茅葺き屋根の集落を再生する事業が進められています。



「西湖いやしの里 根場」整備状況

基礎知識

足和田土石流災害

土石流により生活
基盤を破壊された
根場、西湖地区は
集団移転を決断。

富士山北麓に位置する旧足和田村（現在の富士河口湖町）の西湖湖畔には、かつて根場地区と西湖地区という2つの集落がありました。この2つの集落は、昭和41年9月25日、台風26号の豪雨により発生した土石流によって壊滅的な被害を受け、残された住民は集落ごと住み慣れた土地を離れざるをえませんでした。今回は、この「足和田土石流災害」について取り上げます。

■災害状況

昭和41年9月25日、台風24号の影響による連日の雨で旧足和田村一帯の雨量は270mmを記録し、山間部の地盤が緩んでいました。そこへ更に台風26号の影響による時間雨量100mmの記録的な豪雨が降った結果、山腹が崩壊し土石流が発生しました。

本沢川、三沢川で発生した土石流は、それぞれ根場地区、西湖地区の中心部を直撃し、その結果、根場地区では人口235名のうち死者・行方不明者63名、西湖地区では人口513名のうち死者31名をという大きな災害が発生しました。



土石流で崩壊した根場地区

■困難をきわめた搜索活動

集落全体は、一瞬のうちに深い土砂に埋め尽くされました。ほとんどの住民が住む家を失い、親、兄弟姉妹、子供が見つからない状態で、更に泥まみれの重傷者も続出し救助活動は困難をきわめ、あせり、疲労、不安が募るばかりでした。

地元の住民は誰もがなんらかの形で被害を受けており、救出活動を行える状態ではありませんでした。そのような状況下、自衛隊による搜索活動は10月7日まで、延べ



救援搜索活動（根場地区）

16,000人以上の人員を動員して行われました。

悲しいことに集落から1kmも下流の西湖の中で見つかった遺体もありました。何頭もの牛が湖の中で泥に埋まりながら死んでいました。連日湖面から湖水の中までくまなく搜索が行われましたが、結局根場地区の13名の方々を見つける事が出来ませんでした。

■集団移転を決断

災害から1年後の昭和42年9月25日、根場・西湖地区それぞれで慰霊祭がとりおこなわれ、これを区切りとして、復興へ本格的に取り組み始めました。根場・西湖地区はもともと養蚕・林業・酪農で生計を立てていましたが、住宅・耕地・牛・全ての生活基盤を奪われてしまい、新しく生活基盤をみつけないければならない状況に置かれ、ほとんどの人は裸一貫の再出発となりました。



土石流で崩壊した西湖地区

両地区はそれぞれ何度も話し合い、「今まで住んでいた場所は、家を建てられるほど整地されていない」、「再度同じ災害に遭うかもしれない危険な場所に住むのは怖い

から、安全な場所に移りたい」という意見が多く、集団移転することを決断しました。

根場地区は、これまでの集落のすぐ南の青木ヶ原の溶岩台地に、一方、西湖地区は湖の対岸に、それぞれ全世帯が移転することになりました。

移転先では恵まれた自然環境を生かした民宿村として新たにスタートし、復興に向けて歩み始めました。



西湖周辺の垂直航空写真

■足和田土石流災害の教訓

富士山周辺の土石流危険渓流※は、大きく2種類に分類できます。1つは富士山を囲む山々に多く存在する流域面積が小さく勾配が急な渓流。もう1つは富士山の山腹に存在する流域面積が大きく勾配がやや緩やかな渓流です。足和田土石流災害は前者の渓流で発生しました。一方、後者の渓流の代表的なものは、大沢崩れを有する大沢川などです。

土石流災害は、根場地区や西湖地区に限った特殊な現象ではなく、富士山周辺のどこにでも発生する可能性がある現象です。普段から土石流危険渓流の位置を把握し、早めに確実な避難を行うためのハザードマップや情報伝達網の整備、減災のための砂防設備が必要です。

※土石流危険渓流

土石流危険渓流とは、土石流の発生の危険性があり、1戸以上の人家（人家が0戸でも官公署・学校・病院・駅・旅館・発電所等のある場所を含む）に被害を生ずるおそれがある渓流をいう。

なお、土石流危険渓流以外の土石流が発生および流下する恐れのある区間についても、準用することができる。

参考資料：「砂防と治水157号」（社）全国治水砂防協会発行
写真提供：富士河口湖町

富士山に暮らす

富士山周辺を通る東海自然歩道は、富士山を眺望することのできる人気のコースです。

■東海自然歩道とは

東海自然歩道は、歩くことにより、各地の豊かな自然や文化にふれることを第一のねらいとし、第二に多くの人に歩くことの素晴らしさを知ってもらい、自然保護の思想を培うことを目的として、昭和44年に厚生省（現在の厚生労働省）が提唱して策定され、同49年に環境庁（現在の環境省）の主導で整備が完了した長距離自然歩道の第1号です。

東京の「明治の森高尾国定公園」から、大阪府「明治の森箕面国定公園」までを結ぶ、全長約1,343kmのコースで、中でも富士山麓をめぐるコースは富士山の麗姿と富士五湖を堪能できる人気のコー



足和田山から見た河口湖と御坂山塊

スとなっています。

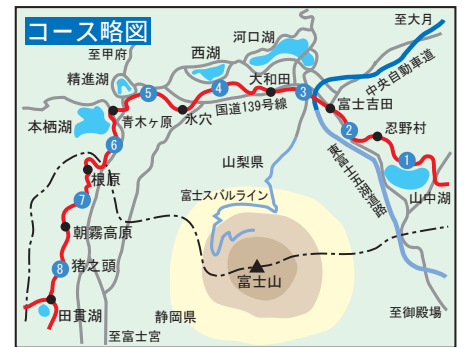
- ①大平山コース（山中湖村平野→忍野村）
山中湖を眺望できる人気ハイキングコースです。歩行時間約4時間
- ②忍野村コース（忍野村→富士吉田市）
晩秋から早春にかけて、朝日に染まる紅富士を眺望できるコースです。歩行時間約2時間
- ③剣丸尾コース（富士吉田市→鳴沢村大和田）
富士山と足和田山の眺めが魅力的な溶岩台地を横切るコースです。歩行時間約2時間
- ④紅葉台コース（鳴沢村大和田→鳴沢氷穴）
紅葉台からの素晴らしい眺めを見ることができるコースです。歩行時間約3時間
- ⑤青木ヶ原コース（鳴沢氷穴→本栖湖）
青木ヶ原樹海の深い森林の中を歩くコースです。歩行時間約3時間
- ⑥本栖湖コース（本栖湖→県境→富士宮市根原）
県境を過ぎ、富士山西麓の広々とした高原が眺められるコースです。歩行時間約4時間
- ⑦朝霧高原コース（富士宮市根原→猪之頭）
朝霧高原を歩きながら、天子ヶ岳、富

士山、高原の牛などの素晴らしい景色を楽しめるコースです。歩行時間約4時間



紅葉台から見た富士山

- ⑧田貫湖コース（猪之頭→田貫湖）
陣馬の滝、小田貫湿原、田貫湖など見どころの多い充実したコースです。歩行時間約3時間



参考資料：「東海自然歩道」武村岳男著 山と溪谷社刊

富士山に寄せる想い

～日本一高いところにある郵便局～

日本一の高所にある郵便局をご紹介します。それは、特に7月・8月に登山客でにぎわう富士山頂に開設される「富士山頂郵便局」です。富士山頂郵便局は、毎年、7月10日から8月20日の間（営業時間：午前6時～午後2時 42日間無休）だけ開設している季節開設局です。42日間で1万人以上の登山者が利用する非常に人気のある郵便局です。

富士山頂郵便局のオリジナル商品として、富士山麓で間伐された富士ひのきに焼き印を押した『ひのきメール』や『登山証明書』『登頂証』があります。

現在使用している風景入通信日付印は、長年愛されてきた気象レーダードームが撤去されたことにより、平成14年7月から雲の上にそびえる富士山と山頂郵便局をデザイン化した風景印に変わっています。



期間中、富士宮郵便局から職員1人とゆうメイト（非常勤職員）1人の2人1



富士山頂郵便局

組が一週間交替で富士山頂郵便局に常駐します。寝泊まりは事務室の奥、2畳程の部屋で2段ベットを利用し、食料品は持参したおにぎり、カップラーメンが主食で、風呂はありません。

1週間で交替しますが、天候によっては交替できず、そのままさらに3～4日間閉じ込められ、トイレに行くにも難儀をすることがあります。その間は、じっと嵐が通り過ぎるのを待つのみですが、嵐の後の見事な快晴が楽しみです。

富士山頂郵便局は、登山者の方の郵便物受取りや郵便商品の販売、風景入通信日付印の押印など日本一高いところからの郵便発送の業務を行っています。日本

全国はもとより海外からも多くの登山者が訪れる富士山とともに愛され親しまれる郵便局として今後も在り続けたいと思います。【富士宮郵便局員一同談】

- 富士山頂郵便局開設の歴史
 - ・明治39年7月30日に富士山郵便局として富士山麓吉田口及び須走口寄り八合目に開設
 - ・明治40年7月16日に富士山北郵便局へ改称
 - ・明治42年7月20日に富士山郵便局へ改称し、富士山頂に開設
 - ・昭和18年から昭和22年までは太平洋戦争の影響で一時期閉鎖
 - ・昭和24年7月10日に富士山頂郵便局へ改称、再開し現在に至る
- ※明治42年～昭和17年は大宮郵便局（現在の富士宮郵便局）が受け持ち局、昭和24年～昭和27年は御殿場郵便局が受け持ち局、昭和28年～現在は富士宮郵便局が受け持ち局となっています。



富士山頂郵便局で業務にあたる職員

お知らせ

7月9日梅雨前線による降雨にて準備態勢

7月9日(土)15時から23時にかけて活発な梅雨前線の影響により、富士山麓の二合目観測所(標高1,380m)において連続雨量162mmを記録し、勢子観測所(標高980m)では、最大時間雨量38mm(21時~22時)を記録しました。

これにより、富士砂防事務所土砂災害等対策支部では、20時から23時まで準備態勢に入りました。翌日、管内の溪流点検を行いました。幸い土石流の発生はありませんでした。

平成16年度 優良工事施工者等表彰式

富士砂防事務所が発注し、平成16年度中に完成した工事において、特に優秀な成績をおさめた施工者等に中部地方整備局長表彰、富士砂防事務所長表彰を行いました。また、優れた施工技術をもつ下請業者に感謝状を贈呈しました。



平成15年度
富士山大久保沢溪流保全工及び橋梁付替工事



平成16年度
富士山源頭域調査工事

中部地方整備局長表彰 優良工事施工者:(株)井出組
平成15年度富士山大久保沢溪流保全工及び橋梁付替工事
中部地方整備局長表彰 優良工事技術者:大旺建設(株)前田守
平成16年度富士山源頭域調査工事
富士砂防事務所長表彰 優良業務:(株)トップエンジニア
平成16年度富士砂防事務所管内土地関係調査業務
富士砂防事務所長感謝状:渡辺ブルドーザ工事(株)、(有)世和土木
(平成15年度富士山大久保沢溪流保全工及び橋梁付替工事 担当)

富士宮市防災研修会

6/17(金) 富士宮市は地震防災月間に合わせて、市職員の防災意識の高揚を図ることを目的に、防災研修会を富士宮市役所で開催しました。講師として、当事務所伊藤調査課長が『富士山噴火災害とその対策』と題して、富士山噴火への対応について講演しました。

猪の窪沢橋上部工架設工事見学

平成16年度富士山猪の窪沢橋上部工工事(昭和コンクリート工業(株))において、6月22日(水)、23日(木)にボストン方式PC単純バルブT桁橋の架設を行いました。22日は富士宮市内野区、人穴区の住民(10名)が、23日には富岳館高校の生徒(19名)が見学に訪れました。



富士治山治水期成同盟会が要望書を提出

富士宮市、富士市、芝川町からなる富士治山治水期成同盟会が、7月12日(火)に当事務所を訪れ、富士山麓地域の安全対策を早急かつ確実に実施するため、火山噴火対策の着実な推進を要望されました。

第3回 富士山土砂災害対策連絡会

7月20日(水)、(社)全国治水砂防協会的主催により、「環富士山火山防災連絡会」を構成している静岡、山梨両県の富士山周辺自治体を招いて「第3回富士山土砂災害対策連絡会」が国、県の出席と共に開催されました。北海道壮瞥町総務課の田鍋参事が「2000年有珠山噴火とその教訓」、(財)砂防・地すべり技術センターの池谷専務理事が「火山災害と広域連携」と題して講演しました。



土砂災害防止月間(6月)

実施日	行事内容	参加人数	開催場所
6月12日	砂防フェスティバル しずおか	多数	静岡市『青葉シンボルロード』
6月16日~22日	砂防事業に関する パネル展示	1970名	富士川町道の駅 『富士川楽座』
6月27日	フーちゃん公園 花植え	40名	潤井川フーちゃん公園



砂防フェスティバル



フーちゃん公園花植え

富士山火山防災ウィーク

6月30日(木)から7月7日(木)の間、山梨県環境科学研究所主催の『富士山火山防災ウィーク』の一環として、パネル展示(7月30日(木)~8月7日(木))及び土石流模型実験(8月3日(日))を実施しました。

富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
6月2日(木)-3日(金)	ノルウェー国施設見学	4	概要説明と扇状地、由比地すべり見学
6月 3日(金)	富士宮市立富士根南小学校	234	概要説明(出前講演)
6月10日(金)	富士宮市立富士宮第二中学校	20	概要説明
6月12日(日)	富士市原田地区連合町内会	55	扇状地見学
6月13日(月)	JICA各国	10	概要説明と扇状地見学
6月16日(木)	JICA各国	5	大沢崩れ見学
6月17日(金)	富士宮市立富士見小学校	7	概要説明
6月17日(金)	富士宮市職員(防災研修会)	180	概要説明(出前講演)
6月22日(水)	富士宮市立上井出小学校	21	概要説明(出前講演)
6月22日(水)	富士宮市内野区、人穴区	10	工事現場見学会
6月23日(木)	静岡県立富岳館高校	19	工事現場見学会
6月24日(金)	富士宮市立大宮小学校	106	扇状地見学
7月 5日(火)	富士宮市立富士根北中学校	124	概要説明(出前講演)
7月 7日(木)	富士宮市立西富士中学校	50	扇状地見学
7月14日(木)	静岡県商工会議所専務会	25	扇状地見学
7月21日(木)	富士宮市立大富士小学校	167	概要説明(出前講演)
7月27日(水)	沼津市国際交流協会	30	概要説明と扇状地見学
7月28日(木)	日本大学文理学部	14	概要説明と扇状地見学

見学者の皆さんから激励のお手紙が届きました。ありがとうございました。

ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

お問い合わせ・ご連絡先

国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
担当/総務課長・釜崎、または調査課長・伊藤まで
TEL.0544-27-5387

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1
TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。

私が担当しています。



調査課
田端 元
(調査・広報担当)

「FUJISABO 通信 ふじあざみ」の編集を担当しています。あこがれの富士山に関わる仕事ができ嬉しく思っています。これからも富士山の情報発信に頑張ります。